

参加団体

代表組合：ブラザー健康保険組合、参加組合（代表含）：19組合  
産業医科大学産業生態科学研究所産業保健経営学研究室、株式会社PREVENT、KDDI株式会社

事業目的

血管病リスクが高く、かつアプローチに困難性を有するシフトワーカーの生活習慣病の重症化予防をICTを活用して実施し、その効果検証と、有用な保健事業実施方法の探索を行う。

## 実施の流れ



1

### データベース構築 現状分析

各健康保険組合が、レセプトデータならびに健診データを匿名化し共通のデータベースを構築し、時系列データを含めた現状分析を行う\*。

2

### リスク予測 対象者抽出

構築したデータベースからシフトワーカーにおける健康課題の抽出を行う。また、その結果を踏まえ産業医と連携しながら重症化予防事業の対象候補者の選定を行う。

3

### 保健事業実施

#### 【対象】

- ・生活習慣病を治療中のシフトワーカー（夜勤や準夜勤、早朝勤務）あり
- ・リスク判定によるハイリスク該当者

#### 【介入内容】

- ・ウェアラブル機器、塩分測定器、スマホアプリを活用したログ管理
- ・医療専門職との遠隔個別面談（全8回実施）
- ・医療機関、産業医とのレポートを介した情報共有

4

### 効果判定

保健事業の成果をレセプトデータならびに本人から提供いただいた診療データとともに分析し、アウトカム、アウトプットを評価する。

## 課題と改善策



### シフトワーカーにおける健康課題が不明確

- ✓ シフトワーカーは生活習慣病をはじめ、脳梗塞や心筋梗塞など重篤な血管病の発症リスクが高いことは知られているものの、就業層における実態、シフトワークの種類による健康課題の違いなど、その全容は分かっていない。
- ✓ また、産業医との有効な連携方法や健康保険組合としてカバーすべき範疇など明確な基準は定まっていない。



### 医療データ解析によって効率的な事業を

- ✓ レセプトデータ、健康診断データ、就業記録を分析し、シフトワーカーにおける生活習慣病実態の把握ならびに重症化を予測するアルゴリズムを構築する。
- ✓ 生活習慣記録の産業医との定期的な共有も図りながら、保健事業との最適な連携方法の探索もしていく。



### ライフスタイルにあった支援の困難性

- ✓ シフトワーカーであるが故に勤務地や変則勤務が多く、事業主・健康保険組合側からの継続的な健康づくり支援には限界がある。



### ICTで時間や場所に拘束されない支援を

- ✓ スマホアプリやウェアラブル端末を利用した健康づくりプログラムを提供することで、シフトワーカーであっても時間や場所に拘束されない事業の実施が可能となる。
- ✓ 睡眠習慣や食習慣のトラッキングをICTを活用して把握することでよりダイレクトに生活習慣改善にアプローチが可能となる。



### 医学的な専門性の不足

- ✓ 治療域の方を対象にした保健事業である重症化予防事業の企画、実施には、医学的な知識が必須である。
- ✓ 一方で各保険者の持つ医療の専門的なリソースは不十分であり、また新規事業を実施する人的なリソースすら十分であるとは言えない状況である。



### 共同事業によって専門リソースを共有可

- ✓ 解析を共通データベース上で実施することで、医療データ解析にかかる手続きを共有化し、解析コストを削減することが可能。
- ✓ 医療の専門家からデータヘルス計画の重症化予防事業の企画、実行のサポートを得ることができる。